

平成30年度第1回普及・情報専門委員会議事概要

1 日時：平成30年5月29日（火） 13時30分～15時30分

2 場所：文部科学省研究交流センター 2階第1会議室

3 出席者：（委員）鎌田委員長（つくば科学万博記念財団）

佐藤委員（筑波大学）

菅原委員（宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター）

中西委員（㈱クラレつくば研究センター）

長山委員（産業技術総合研究所）

草野委員（関彰商事㈱）

三石委員（㈱つくば研究支援センター）、

島村委員（県科学技術振興財団）

中川委員（つくば市）

引野委員（高エネルギー加速器研究機構）

（事務局）広瀬事務局長、鈴木（記録者）

4 議事（○：委員発言、●：事務局発言）

委員長あいさつ

冒頭、委員長から、委員会活動の再確認・検討について、本年6月に開催予定の筑協総会に向けて議論を加速させていきたい旨の挨拶があった。

（1）「サイエンスQ」の実施状況について（報告）【資料1】

事務局から、資料1に基づき平成29年度におけるサイエンスQの実施状況について報告。

（2）筑協機能の再確認・検討に係る最終報告について（審議）【資料2】

《広報（普及情報）担当者のネットワーク構築》

事務局から資料2に基づき説明後、つくばサイエンスツアー協力研究機関の広報担当者会議について委員から紹介があった。各委員の意見は以下のとおり。

○何かあるときに使えるようなネットワークの準備はあってもいいが、独自にネットワークをつくるということではなく連携ができればいいのではないかと思う。

○face to faceでの広報担当者同士の交流や意見交換については、ニーズが出てきたらそのときに考えればいいのではないかと思う。メーリングリストは、既存のネットワークがあればそれで十分ではないかと思う。

○事務局案の「ネットワークの構築は筑協に求められている役割そのものであることから」という文言は、削除してもいいのではないか。

⇒既存のネットワークが存在していることから、メールベースでのネットワークを新たに構築する必要性は低いこと、今後ニーズが出てきたら必要性を含めて検討していくこととした。

《委員会のオープン化の推進》

⇒事務局案で了承された。

《筑協以外の連携組織等との連携》【資料3、4 記者クラブとの交流会】

事務局から資料2～資料4に基づき説明。各委員の意見は以下のとおり。

- 記者やメディアとの交流会を開催するとしても、交流会の場で筑協から記者に何を伝えるのか、ネタを探すのが難しいのではないかと。
 - 記者クラブ側には筑協会員機関の広報担当者との交流会に関心があることから、何かのタイミングで顔合わせ的に実施するというのも大事ではないかと思う。
 - 取材を受ける機会が少ない機関としては、記者とお近づきになる機会にもなることから、年に1回くらいは交流会を実施してもいいのではないかと。
- ⇒年内を目途に記者クラブとの茶話会的な交流会を試行的に行うこととし、実施後のアンケート結果等を踏まえ、今後の継続の必要性や実施方法について検討していくこととした。

《筑協が行うべき情報発信等の方向性や内容》【資料5】

事務局から資料2及び資料5に基づき説明。各委員の意見は以下のとおり。

①筑協ホームページについて

- ホームページによる情報発信については事務局案でいいが、最近はスマホフレンドリーな形のインスタグラムやフェイスブックが主。スマホしか利用していない者が多いこともあるので、パソコンフレンドリーでない形での情報発信が一定の層には効果があると思う。
- ホームページの情報をスマホでみるという時代である。ホームページを改訂するのはいいが、SNSフレンドリーを意識してやっつけていかないと意味がないのではないかと。
- 参考となるご意見をいただいた。具体的にどうしていくかは考えないといけないが、SNSの時代ということもあるので、SNSでの情報発信について今後検討していきたい。
- SNSは登録者数がものを言う。いわゆるフォロワーが、100人、200人程度では話にならず、やはり1,000万、1億くらいフォロワーがいないと情報発信してもほとんど見向きもされない。ただ、いわゆる炎上のリスクがあるため、その対策が必要となるが、炎上を恐れているとフォロワーはつかない。そこの兼ね合いができれば、情報発信のツールとしてSNSが一番有効ではないかと思う。
- フォロワーをいかに獲得していくかということは、話題性のあるものをいかに発信していくかということかと思う。研究機関であれば話題性のあるものを打ち出していけるが、筑協と

いう協議会でどのくらいフォロワーがつくかというのは疑問でもある。

○筑協会員機関の研究成果の写真や取材した内容をSNSで発信して、「筑協」と検索させてホームページに呼び寄せることがひとつの方法になると思う。筑協が、何かを開発しているとか、売っているわけではないので、筑協独自のネタはSNS向きではないのは確かで難しいところではある。

○インフルエンサーという拡散してくれる人をどうやって掴むか。

○筑協自らが発信するのではなくて、各会員機関のネタをリンクするといった仕組みづくりが必要ではないかと思う。

○事務局案では、“既存情報を活用しつつ発信するページを作成していく”としているが、発展的な要素を入れたほうがいいと思う。SNSの時代だということもあるので何か工夫する形で最終報告を取りまとめてはどうかと思う。

⇒ホームページによる情報発信に加え、フェイスブックやインスタグラムなどのSNSを活用した情報発信についても今後検討していくこととした。

②サイエンスQ

○サイエンスQをニュースとして発信してみてもどうか。地域の小中学校が対象だが、筑協としてこういうことをやっていますよ、とアピールできればいい。

●いい問題提起をいただいたので、今後検討していきたいと思う。

⇒事務局案のとおり了承された。

《つくばの研究コミュニティポータルサイトとの連携》

事務局から資料2に基づき説明。各委員の意見は以下のとおり。

○実務担当者から提案があつてから時間も経過していることから、削除してはどうか。当委員会の検討課題として抱えている必要はないのではないか。

○その後、実務担当者から応答がないのであれば、当委員会での検討を止めて決着をつけた方がいいのではないか。フェイスブックを使う時代に、中央で何かをやるというコミュニティのあり方は遅れていると思う。

●消極的な表現にさせていただこうかと思う。改めて会員機関の実務担当者から話があれば、仕切り直しをすることにしたい。

⇒研究コミュニティポータルサイトについて、実務担当者から具体的な情報が提供された際には筑協としての対応を検討していくこととした。

(3) 最終報告に向けた今後の予定

- ・今回の委員会での議論を踏まえ、委員長とすりあわせを行い、最終報告を事務局でとりまとめることとなった。

以上